

地 域 再 生 計 画

1 地域再生計画の名称

きっと満足糸島生活水環境再生計画

2 地域再生計画の作成主体の名称

福岡県、糸島市

3 地域再生計画の区域

糸島市の全域

4 地域再生計画の目標

糸島市は、平成 22 年 1 月 1 日に 1 市 2 町（旧前原市、旧二丈町、旧志摩町）が合併し誕生した。本市は、福岡県西部の糸島半島に位置し、北側は玄界灘に面した美しい海岸線が広がり、南側には脊振雷山山系の山々が連なっており、東は 150 万人都市である福岡市、西は佐賀県唐津市に隣接している。中央部の糸島平野には広大な田園地帯が広がり、東西に走る JR 筑肥線、国道 202 号沿線を中心に市街地が形成されている。合併当初の平成 22 年 3 月の人口は 100,551 人（県内 8 位）、総面積 216.15 km²（県内 6 位）で、土地の利用形態は、宅地 7.3%、農地 27.9%、森林 45.5% であり、農地・森林の面積が 7 割強を占める自然豊かな地域となっている。

立地としては、福岡市の中心部である天神から JR 筑肥線筑前前原駅、また、西九州自動車道前原インターチェンジとともに約 30 分の時間距離であり、博多駅や福岡空港にも直接アクセスできる交通利便性の高い地域である。

市の海岸沿いには、日本の渚百選・日本の夕陽百選に選ばれた県の名勝「二見ヶ浦」や国指定天然記念物の「芥屋の大門」、玄海国定公園「幣の浜」や九州でも珍しい鳴き砂「姉子の浜」、快水浴場百選に選出された「芥屋海水浴場」などが美しい白砂青松の海岸線を彩っている。このため、海水浴やサーフィン、通称「サンセットロード」のドライブ、レストラン、ガラス細工や陶芸など様々な工房、ギャラリー、冬の風物詩となった「カキ小屋」、九州最大規模の野外音楽イベント「サンセットライブ」を楽しむ観光客で四季を通じて大いに賑わっている。

市の山間部には、国指定重要文化財「木造千手観音立像」と県の天然記念物に指定された大カエデで有名な「雷山千如寺」や、国指定史跡「雷山神籠石」などの文化資産がある。また、九州一の群生地である井原山の「オオキツネノカミソリ」など美しい自然景観を巡る登山・ハイキングコースや県指定名勝「白糸の滝」、九州初の「フォレストアドベンチャー・糸島」、キャンプ場の「森林公園真名子木の香ランド」や「瑞梅寺山の家」など豊富な観光資源がある。

市の主要産業である農畜産業は、農業生産額 159.5 億円（H18 年）で福岡県内第 3 位の産地であり、上位品目としては、米（H18 年県内 2 位、20 億円）、いちご（同

3位、16億円)、豚(同1位、14億円)、生乳(同2位、13億円)、洋ラン(同1位、10億円)などが挙げられる。

漁業においても、市町村別水揚量日本一の天然真鯛や養殖カキの産地で、焼きガキをその場で食べることができる「カキ小屋」は糸島の冬の風物詩となっている。

また、日本最大級の売り上げを誇るJA糸島の産直市場「伊都菜彩」をはじめ、糸島の豊富な大地の恵み、海の幸を販売する大小様々な物産直売所があり、糸島産の新鮮で安全・安心な「糸島ブランド」の食材を求め、市内外から多くの買い物客が訪れている。

市は、以上のような豊富な観光資源を活用し、滞在型・体験型の観光振興策を実施しており、現在では、雑誌にも度々紹介され、糸島ガイドブックが発刊されるほどの県内屈指の観光スポット、レジャースポットとなり、観光客は年間500万人を超えている。さらに現在の「糸島ブーム」を一過性のものにしないよう「糸島ブランド」の確立を目指している。

また、市の北東部には、文部科学省のスーパーグローバル大学に選定された九州大学の伊都キャンパスがあり、九州大学の知的資源をまちづくりに活用すべく、学術研究都市推進計画を策定し、九州大学と毎年100を超える連携・交流事業を実施し九州大学と連携したまちづくりを進めている。

市の財政状況は、これまで市町合併と同時に行財政改革を実施して改善に取り組んできており、平成25年度一般会計においては、経常収支比率が87.4%(前年度比1.5ポイントの改善)、健全化判断比率である実質公債比率は14.8%(前年度1.1ポイントの改善)、将来負担比率は59.5%(前年度比17.3ポイントの改善)となり合併効果及び行財政健全化の取り組みにより財政状況は以前に比べて改善している。

しかし、依然として自主財源が37.3%と低く、地方交付税をはじめとした依存財源に頼らざるを得ない財政構造となっている。県内27市の中で、平成24年度の地方税収計は24位、市民税個人分は14位、市民税法人分は25位、固定資産税は25位、市町村たばこ税は25位、地方消費税交付金は27位と苦しい財政状況にある。

上記のように糸島市は、糸島市独自の魅力ある観光資源を活かし、観光振興を推進し、九州大学という強みを生かしたまちづくりを進めてきた効果により、新聞や雑誌などのマスコミに取り上げられるようになったが、市の活力の基盤である人口の減少が進んでいる。

平成22年3月の100,551人をピークとして人口減少が続き、平成26年3月には、99,885人となり、4年で約700人が減少し、国立社会保障・人口問題研究所による推計では、2025年には「9.4万人」、2040年には「8.3万人」との推計が出された。

また、高齢化も進んでおり、市全体の高齢化率は平成22年3月に21.2%であったが、平成26年3月には24.9%(平成24年10月の県平均23.1%)と3.7ポイント増加し、市民の4人に1人は高齢者となっている。

今後、高齢化の進行による医療費や介護費など社会保障費の増大、人口減少による税収・手数料の減少、道路、公園、上下水道、図書館、学校など社会基盤の長寿命化・老朽化対策の停滞、農林水産業の後継者不足、耕作放棄地の増加、自治会活

動の衰退、災害時の避難困難者の増加などが懸念され、市の活力が失われていくことに市は強い危機感を持っている。

中でも農業集落及び浄化槽整備区域内の集落では、高齢化率が高く、平成 26 年 3 月時点における農業集落排水事業区域の高齢化率は怡土校区（高上地区含む）30.1%、長系校区 30.9%、浄化槽整備区域内の福吉校区 32.9%、引津校区 32.7%であり、市平均 24.9%と比較して高い傾向にある。

このことは、市の基幹産業である農畜産業や漁業従事者の高齢化と後継者不足、地域の担い手不足と強く関連があり、市の大きな課題である。

市内には、雷山川をはじめ複数の河川が流れ、玄界灘に注いでいます。污水处理施設の整備が完了した地域においては河川の水質改善が見られるものの、未整備地域においては、生活雑排水の流入による河川や農業用水路の水質汚濁、それに伴う農産物への影響、生活環境及び自然環境の悪化が懸念されている。

このため、糸島市では、污水处理施設整備交付金を活用し、農村地域においては農業集落排水事業を実施し、公共下水道及び集落排水の区域以外においては、合併浄化槽設置整備事業（個人設置型）を実施することにより、水質汚濁の主な原因である生活排水を適正に処理し、公共水域の水質を改善し、市の基幹産業である一次産業（農業・漁業）の環境を向上させるとともに、住環境の改善を目指す。

併せて、「マイホーム取得奨励金制度」、「空き家リフォーム補助金」、「空き家バンク制度」、「前原東土地区画整理事業」などの定住促進事業を推進する。加えて、「妊婦歯科検診」、「乳幼児健診・ファミリー健診」、「子育て支援センターの子育て支援事業」などの出産・育児支援事業、及び、「第 3 子以降の保育料免除」、「私立幼稚園子育て支援補助金」、「放課後児童クラブの開所時間延長」など子育て・教育支援事業を同時展開し、子育てしやすいまちづくりを推進ことで、定住化を促進し、市の活力を取り戻し、「きっと満足糸島生活」のまちづくりを目指す。

（目標 1） 污水处理施設の整備の促進

污水处理人口普及率 86%（基準値：H25 末）
90%（中間目標値：H28 年度末）
94%（計画目標値：H30 年度末）

（目標 2） 定住人口の増加

定住人口 99,885 人（基準値：H25 年度末の市人口）
100,500 人（中間目標値：H28 年度末）
101,000 人（計画目標値：H30 年度末）

（目標 3） 観光入込客数の増加

観光入込客数 504 万人（基準値：平成 24 年度）
524 万人（中間目標値：H28 年度末）
530 万人（計画目標値：H30 年度末）

5 地域再生を図るために行う事業

5 - 1 全体の概要

糸島市では、汚水処理施設整備交付金及び県単独補助金などを効果的に活用しながら農村地域においては農業集落排水事業を実施し、また、公共下水道及び集落排水の区域外において、合併浄化槽設置事業（個人設置型）を併せて実施する。これにより水質汚濁や悪臭などを解消し、自然環境が守られ、市民が衛生的で潤いのある生活を営むことができる。

また、歴史や自然、文化など糸島市独自の魅力を活かした観光振興や九州大学連携のまちづくり、多様な定住促進事業を推進し、地域の活性化を目指す。

5 - 2 特定政策課題に関する事項

該当なし

5 - 3 法第5章の特別の措置を適用して行う事業

汚水処理施設整備交付金【A3002】

対象となる事業は、以下のとおり事業開始に係る手続き等を完了している。
なお、整備箇所等については、別添の整備箇所を示した図面による。

- ・ 農業集落排水 怡土 期地区 平成 22 年 1 月事業採択
- 長系 期地区 平成 22 年 1 月事業採択
- 高上 期地区 平成 27 年 3 月事業採択予定

[事業主体]

糸島市

[施設の種類]

農業集落排水施設
浄化槽（個人設置型）

[事業区域]

- ・ 農業集落排水施設・・・怡土、長系、高上地区
- ・ 浄化槽（個人設置型）・・・糸島市の全域（ただし、公共下水道事業計画区域・農業集落排水事業採択区域・特定環境保全下水道整備完了区域・漁業集落排水事業整備完了区域を除く）

[事業期間]

- ・ 農業集落排水施設 平成 27 年度～平成 30 年度
- ・ 浄化槽（個人設置型） 平成 27 年度～平成 30 年度

[整備量]

- ・ 農業集落排水施設 管きよ 150 mm 計 L=6,060m

怡土 期地区	L=1,140m
長糸 期地区	L=1,980m
高上 期地区	L=2,940m
マンホールノブ	N=4 基
長糸 期地区	N=1 基
高上 期地区	N=3 基
・浄化槽（個人設置型）	440 基

なお、各施設による新規の処理人口は下記のとおり。

・農業集落排水施設・・・・・・・・事業採択区域で 312 人

怡土 期地区	59 人
長糸 期地区	143 人
高上 期地区	110 人

・浄化槽（個人設置型）・・・・糸島市の全域（公共下水道事業計画区域・農業集落排水事業採択区域・特定環境保全下水道整備完了区域・漁業集落排水事業整備完了区域を除く）で 1,660 人

[事業費]

・農業集落排水施設	345,000 千円（うち、交付金 172,500 千円）
怡土 期地区	89,000 千円（うち、交付金 44,500 千円）
長糸 期地区	94,000 千円（うち、交付金 47,000 千円）
高上 期地区	162,000 千円（うち、交付金 81,000 千円）
・浄化槽（個人設置型）	170,112 千円（うち、交付金 56,704 千円）
合計	515,112 千円（うち、交付金 229,204 千円）

5 - 4 その他の事業

5 - 4 - 1 地域再生基本方針に基づく支援措置

該当なし

5 - 4 - 2 複数事業と密接に関連させて効果を高める独自の取組

該当なし

5 - 4 - 3 支援措置によらない独自の取組

(1) 定住化促進事業

平成 25 年度に「糸島市定住促進行動計画」を策定し、定住促進事業を展開している。平成 27 年 1 月から「マイホーム取得奨励金」を始めている。この制度は、糸島市内で住宅を新築または売買で取得した人に、3 年間、建物の固定資産税相当額を「奨励金」として商品券で交付するものである。また、購入した空き家のリフォーム費用の 2 分の 1 以内で 50 万円を限度に補助金を交付する「空家リフォーム補助金」を平成 25 年度

から開始している。その他、結婚祝い金制度や、子育て支援制度なども実施している。

実施主体：糸島市

実施期間：平成 27 年 1 月～平成 30 年 3 月（マ体-Δ取得奨励金）

また、人口の新たな受け皿となる住宅地として平成 24 年 1 月から「前原東土地区画整理事業（20.2ha）」を実施しており、平成 26 年から完成した部分の分譲が始まっている。

実施主体：前原東土地区画整理組合

実施期間：平成 24 年 1 月～平成 31 年 3 月

（ 2 ）九州大学連携・交流事業

九州大学と平成 22 年 5 月に連携協力協定を締結し、九州大学の知的資源や学生の活力を生かすべく、白糸の滝での小水力発電など、市が九大に研究費を補助し、糸島市を実証フィールドにして地域課題解決のため、毎年 100 以上の連携・交流事業を実施している。

また、市と九州大学地域活性化団体（iTOP）とで、全国の学生と糸島市民が参加する「糸島市地域活性化プランコンテスト」を毎年開催している。

実施主体：糸島市、九州大学

実施期間：平成 22 年 5 月～

（ 3 ）農業経営者育成事業

次世代農業経営者を育成するため、平成 26 年 9 月 26 日、日本農業経営大学校を運営する一般社団法人アグリフューチャー・ジャパンと業務連携協定を提携し、平成 26 年 10 月から「糸島農業経営塾」が開講され、若手農業者約 30 人が受講している。

実施主体：糸島市、一般社団法人アグリフューチャー・ジャパン

実施期間：平成 26 年 10 月～平成 29 年 3 月（予定）

また、「糸島市農力を育む基本計画」を策定し、市と農業者、市民、食品加工業者との連携を進めるとともに、農業用施設（水路、井堰、溜池）の改修を行い、維持管理の効率化に努める。

（ 4 ）観光振興事業

道整備交付金を活用した道路ネットワークの構築を進め、滞在型観光の振興を進める。また、林道施設の整備も実施する。

超小型モビリティをレンタルし、エコツーリズムを推進している。

グリーンツーリズム、ブルーツーリズムなど体験・滞在型観光の振興を図る。また、観光資源であるキャンプ場「瑞梅寺山の家」の修繕を行う。

実施主体：糸島市

(5) 官民含めた様々なイベントによるまちおこし

・福岡マラソン(平成26年11月9日に福岡市と共催で初開催。参加者1万人のフルマラソン)

実施主体：福岡市、糸島市、一般財団法人福岡陸上競技協会

・市民まつり(平成24年度からグルメグランプリと歌・ダンスを中心としたステージ、花火など年1回開催)

実施主体：糸島市

(6) 企業誘致・雇用創出事業

新エネルギー(水素、小水力発電)、三次元半導体及び超高压顕微鏡など九州大学の研究と連携した企業や食品加工業などの企業誘致(税優遇、雇用奨励金制度あり)を行い、雇用創出を進めている。

実施主体：糸島市

実施期間：平成26年度～平成28年度

(7) 子育て支援事業

生後2か月の赤ちゃんがいるすべての家庭を子育て支援センターの職員が訪問して、育児の悩みや相談に応じる「こんにちは赤ちゃん訪問」子育てに関する相談・支援体制の充実、子育て支援ネットワークの確立、ひとり親家庭の自立支援、保育サービスの充実、小・中学校の教育環境の充実を図り、子どもたちの健全な育成に努めている。また、小学校就学前の子ども医療費を無料とする乳幼児医療費の助成を行っている。

実施主体：糸島市

実施期間：平成26年度～平成28年度

(8) 教育環境の充実

学力向上事業として九州大学の学生が先生となり、九州大学伊都キャンパス内で子供たちに授業を行う「伊都塾」を実施するなど、「生きる力」を育む学校づくりの方針のもとに、身近にある九州大学との連携・交流を図りつつ、まちづくり・学校づくりを進めている。

実施主体：糸島市

実施期間：平成26年度～平成28年度

5 - 5 計画期間

平成27年度～平成30年度

6 目標の達成状況に係る評価に関する事項

6 - 1 目標の達成状況に係る評価の手法

4に示す地域再生計画の目標については、計画期間の中間年度及び計画年度終了

後に福岡県糸島市が必要な汚水処理施設整備率の調査等を行い、速やかに状況を把握する。

定量的な目標に関わる基礎データは、福岡県糸島市の汚水処理施設整備率及び定住人口、観光入込客数を用い、中間評価、事後評価の際にも前述の調査集計を行うことにより評価を行う。

6 - 2 目標の達成状況に係る評価の時期及び評価を行う内容

	平成25年 (基準年度)	平成28年 (中間年度)	平成30年 最終目標
目標1 汚水処理人口普及率	86%	90%	94%
目標2 定住人口の増加	99,885人	100,500人	101,000人
目標3 観光入込客数の増加	504万人 (平成24年度)	524万人	530万人

(指標とする数値の収集方法)

項目	収集方法
汚水処理人口普及率	糸島市の毎年の決算データより
定住人口の増加	糸島市の毎年の人口データより
観光入込客数の増加	糸島市の毎年の統計データより

・ 目標の達成状況以外の評価を行う内容

1. 事業の進捗状況
2. 総合的な評価や今後の方針

6 - 3 目標の達成状況に係る公表の手法

4に示す地域再生計画の目標の達成状況始め中間評価及び事後評価の内容を、速やかにインターネット(糸島市下水道課のホームページ)を利用して公表する。

6 - 4 その他

該当なし

7 構造改革特別区域計画に関する事項

該当なし

8 中心市街地活性化基本計画に関する事項

該当なし

9 産業集積形成等基本計画に関する事項

該当なし